

令和5年度 ポニーの会 事業報告（案）

はじめに

令和5年度も新型コロナ感染による社会状況が続いていたが、感染者が減少傾向となり5月には5類感染症へと移行された。当施設は感染予防や対策は引き続き継続して、イベントを再開する等、日常生活を取り戻すことに注力してきた。

ポニーの家多機能・ポニーの家生活介護・ケアホーム夢未来・相談支援事業所キャンディの4事業所が相互連携し、利用者のさらなる支援充実に向けて様々な事例に鋭意対応してきた。また、利用者のサービスの向上を図るため、職員のパフォーマンスアップに向けた全体研修や意識改革に努めた。

また、取手市社会福祉協議会の理事や取手市自立支援協議会の会長として地域貢献の役割を果たした。経営面では、利用者の長期の休みが重なったことから、障害福祉サービスの収入予算を下回る結果となった。

令和5年度 施設運営概況報告

(1) 本部

① 会議

I. 評議委員会・・・開催日 6/3、12/19 計2回

II. 理事会・・・開催日 5/23、6/3、11/10、12/19、3/26 計5回

III. 外部会議に参加

取手市社会福祉協議会・取手市自立支援協議会・高須地域運営委員会・南中地域の会

② 地域貢献活動の実績

サロン（毎週火曜日） 保護者、近隣住民が集まり手仕事を楽しむ場を提供

シルバーリハビリ体操（毎月1回） 保護者、近隣住民の健康増進に貢献

近隣のお祭りに参加（高須公民館、藤代スカイハイツ、光風台団地、六郷公民館等）

高須公民館親子クッキー教室に講師として参加

聖徳高等学校ひまわりプロジェクトとコラボ

③ 職員数

〈職員構成〉

正職員 20 人、非常勤職員 34 人、看護師 3 人、作業療法士 1 人、理学療法士 1 人、言語聴覚士 1 人、厨房職員 6 人、ケアホーム世話人 6 人、カフェスタッフ 4 人、運転手 13 人 合計 89 人

(2) 利用者支援状況

① 各事業所定員

ポニーの家多機能	定員	登録	平均年齢	稼働率
生活介護	38 人	39 人	30.1 歳	87%

就労継続支援 B 型	10 人	10 人	27.5 歳	93%
------------	------	------	--------	-----

ポニーの家生活介護	定員	登録	平均年齢	稼働率
生活介護	20 人	26 人	34 歳	93%

ケアホーム夢未来	定員	登録	平均年齢	稼働率
夢	7 人	7 人	36.6 歳	93%
未来	7 人	6 人	31.5 歳	72%

② 職員研修・・・職員としての意識向上。レベルアップのため各研修・講習会・会議の参加した

日時	名称	参加人数
4/14	会計基礎研修	1 名
4/26	R5 サービス管理責任者研修（更新）	2 名
5/22	R5 サービス管理責任者研修（実践研修）	1 名
7/8～8/20	ミュージックケア初級研修 計 4 回	1 名
7/10	R5 強度行動障害支援者研修基礎実践研修	1 名
7/31	甲種防火管理新規講習会	1 名
8/10	R5 サービス管理責任者研修（実践研修）	1 名
9/12, 13	強度行動障害研修（基礎）	1 名
9/27	R5 食品衛生実務者講習会	1 名
11/20, 21	強度行動障害研修（実践）	1 名
1/9	R5 労務管理とコンプライアンス研修	1 名
2/9	R5 構成採用等人権啓発研修	1 名
2/22	就労継続支援 B 型工賃向上研修	1 名
3/14	茨城県施設士会総会・研修	1 名
3/21	相談支援部会意見交換会	1 名
合計		16 名

③ 各種会議

- I. 支援会議・・・利用者の関係支援員が集まり適宜対応を話しあった。
- II. 職員朝礼、夕礼・・・職員の共通認識を図るために毎日、朝礼 9 時、夕礼 4 時に行った。
- III. 給食会議（利用者会議）・・・開催日 毎月第 3 金曜日
- IV. その他・・・ケアホーム会議、厨房会議、常勤会議・・・適宜

④ 見学者

特別支援学校の親子 9 組の方が、卒業後の進路先を決めるために見学にみえた。
その他、事業所の方 2 名、民生委員の方 3 名が見学にみえた。

⑤ 建物・設備・車両等の保守管理状況

【車両】

キャラバン6・ハイエース1(10人乗り)・・・7台、リフト車(10人乗り)・・・2台
乗用車(7人乗り)・・・3台、助手席可動型軽自動車・・・2台、軽自動車・・・1台
貨物車・・・2台、軽トラック・・・1台、トラック・・・1台

計 19 台

【設備】

- ・カフェ・・・水道つまり修理・エスプレッソマシン部品交換修理(3回)・製氷機、冷凍庫、冷蔵庫リース契約を結ぶ、ダイニングテーブルチェア購入
- ・ケアホーム・・・網戸張替え・食器棚修理・浄化槽ブロアー分解修理
未来棟洗濯機購入、シャワーチェア購入、マットレス購入
赤い羽根行動募金より助成金をいただき、エアロバイク、振動マシン、
ヨガマット、DVD プレーヤーを整備
- ・ポニーの家・・・浄化槽放流ポンプ交換修理2台、ラベルプリンター修理、刺繍ミシン修理
・キャラバン(10人乗り)リース期間終了後購入

(3) 事業別事業報告

【全体】

コロナウイルスが5類に移行し久しぶりに11月にポニーフェスティバルを開催した。地域の方、利用者、保護者等たくさんの方が参加された。焼きそばや豚汁、パフェ等の食べ物やゲームコーナーも大いに盛り上がり、楽しい時間となった。2月下旬～3月上旬にかけて『陽気な催し物』として各グループ、ダンスや劇の動画を撮影した。今後、その動画を編集してDVD販売する予定。各グループ、アイデアが光る発表だった。

また、機能訓練指導員(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)とも協力して、利用者に無理のない範囲で身体の上昇・維持に努めてきた。

【ポニーの家多機能】

1) 生活介護

活動報告

作業や余暇活動をととして、生活能力の向上と健康維持を目指し、基本的な生活習慣を身に付け、それぞれの能力や個性を充分に発揮し、社会参加の意識がもてるように支援して来た。

(内職請負作業部門)

ハンガーのシール剥がし・部品取り、工事用ベストの検品、アクリル板のシールはがし等の作業を行ってきた。それぞれの得意分野の作業を提供してきたが、納期等に余裕がある時は、色々な作業に挑戦したり、作業を選択してもらったりしながら能力の向上を図れるようにしてきた。また、週に2回30分～40分のウォーキングや10分ほどストレッチを行い体を動かした。

(農業部門)

農作業は職員販売用に季節の野菜を作った。種・苗から収穫するまでの工程を覚え、収穫・販売する

喜びを感じられるように支援して来た。草取りや水やりなど畑の整備も行った。夏の暑い日は熱中症に気をつけ外での作業時間を調整しながら作業を行った。

（手工芸部門）

販売場所が減少傾向にあるが、庁舎売店、『買って NET バザール』や地域のお祭り等に製品を出品した。また、11月に開催されたポニーフェスティバルでも手工芸品等を販売した。自分たちで作った商品が実際に販売されている場所（カフェ・藤代庁舎）を見学に行き作業意欲を維持できるようにした。利用者に合わせて個々に説明の仕方を変えるなどして支援した。

（クッキー製造部門）

カフェや JA 夢とりで、藤代庁舎への納品や、さとふる対応の為の製造を継続してきた。利用者のペースに合わせた支援を行うことで入室の時間が違ってもみんなが作業に関われるようにした。注文が落ちているときは必要な材料をみんなで買いものに行った。月に1回取手市内の保育園におやつとしてクッキーを作成配達している。

（パン製造部門）

金曜日の給食には自家製のパンを提供し、焼き立てのパンが喜ばれている。火曜日にサロンに参加されている方々もポニーのパンを購入できることを楽しみにしている。

自分たちが作ったパンを楽しみに待っている方々のことを思い丁寧に作業する様に支援した。数回ではあるが新しい種類のパン作りにも挑戦した。

（売店・きまま部門）

藤代庁舎2名、利用者用の喫茶きまま2名が曜日ごとに担当し接客をした。接客の態度や言葉遣いを身に付け、自信を持って接客できる様に支援した。藤代庁舎、喫茶きままを担当する利用者も増やしていく予定である。

（クリーン部門）

高須体育館の受託清掃の他にも洗車作業や施設内清掃を中心に行って来た。個々のペースを尊重し、みんなで作業に取り組めるように支援した。厨房の食洗作業の際には防水のエプロンを身に付け大鍋洗いや、ゴミまとめなど自分の役割を自信をもって行う姿がみられた。ホールや廊下などの共有スペースや、雨戸なども綺麗に保たれている。

2) 就労継続支援B型

利用者の適性に応じて安定した能力が発揮できるよう、精神面や体調面に配慮して支援した。

（菓子製造部門）

個々の能力が発揮できる環境を整え、協力して作業に取り組めるように支援した。菓子を製造する過程の中で利用者同士声を掛け合う姿も多くみられるようになり、お互いに協力しあって作業することが出来る様になってきた。

（カフェ部門）

取手駅前リボンとりで3階のPONYS CAFEでは、利用者の働く場として食器洗いやランチづくり、接客等に携わった。5人以上の利用者が曜日を決めて日替わりでカフェの作業に携わっている。ポニーでも大きな声であいさつをしたり、利用者同士が丁寧な言葉遣いができるようにしたり練習を続けている。

（クリーン部門）

桜が丘自治会館の清掃を継続して行ってきた。外部での作業は、常にみられていることを念頭に置き言動に気を付けながら丁寧な作業をした。また、給食後の食器洗浄作業も役割が決まっており、自分の役割をきっちりと果たすことができた。施設内清掃も行い、自分たちが使うスペースを常に綺麗にできるよう心掛けた。

【ポニーの家生活介護】

（箸作業部門）

今年度もアオトプラス（株）から受託した箸入れ作業を継続する事が出来た。箸入れやペーパー Spoon の袋入れや、1枚の紙を袋に折り、作成してから箸を入れるといった複雑な工程の箸入れも行った。利用者が取り組みやすい方法を考えて提供することや得意な場面を活かしながら作業を提供し、沢山の商品に取り組むことで「上手に出来た」という自信に繋げていった。また、時には外へ出て気分転換を図り、運動機能の維持と利用者同士のコミュニケーションの場を作ってきた。他の活動班と合同で調理レクリエーションや、野菜や花を育てる経験の場も提供し、楽しい時間を過ごせるよう支援した。

（生活ドルチェ部門）

個々のリハビリ計画に沿って、理学療法士や作業療法士によるリハビリをおこない身体機能の維持向上だけでなく専門的なアドバイスのもとに仕事や生活において、各々の力を引き出す支援の向上を目指し実施した。日々のストレッチや運動が歩行状態の改善となるよう支援に努めた。また、3ヶ月に1度おこなっていた歯科検診は定期的に実施、3名の利用者が利用した。歯科検診の結果、要治療となったケースは、ご家族に促しスムーズに医療機関に繋げたケースもあった。ミュージックケアや創作活動、散歩等を通し心豊かな生活を目指す支援を行った。力を合わせた創作作品を近所の公民館などに飾っていただくことで、地域との交流や充足度を感じていただけるような場面を設定した。それぞれの利用者が心穏やかに楽しく過ごし、日々の意欲につながる様支援した。

（製本印刷部門）

パソコン作業の中で能力に応じて仕事を配分し、個々のスキルも向上するよう支援に努めた。職員や外注の名刺等を受注作成し、12月には年賀状印刷の注文を受け納品した。また、施設内で使用するCD作成や写真の取り込みなども行った。自ら責任をもって、自主的に動作チェックもこなして納品する「仕事」として自信を持って取り組んでいる。毎月の仕事として給食の献立表、検食表、フレンズの会の議事録などがある。他の活動班と合同で調理レクリエーションや、ストレッチや足浴等も取り入れ仕事だけではなくリラックスや楽しみも感じられるような活動を提供し支援した。

（未来工房部門）

ボールペン・慶弔ペン封入を中心に進めながら、荷物運び・ペットボトル潰し・段ボール処理など他班や事務所のお手伝い等を行った。作業に関しては難しい工程でも、一部職員がサポートをしながら未来工房班全員が関わられるよう支援した。また、余暇活動や、定期的な運動も積極的に行い、心身の安定を図っていった。さらに、生活面の課題も見出し、身支度、手洗いなど利用者一人ひと

りの目標や課題をご本人と繰り返し確認しながら、生活の質を維持し意欲をもって過ごせるよう働きかけた。

【ケアホーム夢未来】（共同生活援助）

コロナが落ち着き、個食からリビングにて皆との食事に変更した。食事前には、言語聴覚士による舌を鍛える体操、「あいうべ体操」を取り入れ行っている。

休日には、季節感を味わえるよう、鯉のぼりを見に出かけたり、バーベキューや花火大会を開催。サラダやデザート作りにも挑戦し、包丁に苦戦しながらも食べる時はいい笑顔をしていた。

12月より未来に新しい仲間が加わる。ご本人のペースを大切にしつつ、共同生活に慣れて貰えるよう支援してきた。

また、赤い羽根共同募金の寄付金でエアロバイクと振動マシン、DVDプレーヤーを購入し、皆で楽しみながら健康維持を図っている。

【相談支援事業所キャンディ】

ポニーの家の利用者 66 名 その他 64 名 計 130 名の相談支援を担当した。

令和5年度は、関係機関と連携を図り、利用者の身体機能の向上に向けた支援を行なうことができた。それにより生活の質が大きく改善した。

ポニーの家等の通所施設、ケアホーム夢未来等のグループホームからの連絡により利用者の現在の状況を正確に把握することができた。それを元に医療機関へ適切に情報提供を行ない、利用者が医療を受けられるよう支援を行なった。

利用者の状況についての情報だけでなく、実際に行なっている支援また支援員たちの思いもしっかりと聞き取り、医療機関等に伝えていくことで、支援チームの繋がりが強まり、支援力が大幅に上がることを実感した。